

『スボーディニー』第六章試訳

眞鍋智裕・鈴木菜那・松浦あかり

1. 序

本稿は、14世紀ころ活躍したヴィシュヌ教徒シュリーダラ・スヴァーミン（Śrīdhara Svāmin）⁽¹⁾による聖典『バガヴァッド・ギーター』（*Bhagavadgītā*, BhG）に対する註釈『スボーディニー』（*Subodhinī*, Su）のうちの BhG 第六章箇所を試訳である。本稿執筆は以下のような経緯によっている。すなわち、眞鍋の主宰している大学院生・学部生対象のサンスクリット文献読解のための勉強会において、Su 第六章をとりあげ、読解を行った⁽²⁾。その際の諸資料を眞鍋が整理したものが本稿である。Su 読解に際しては先行英訳の付属した刊本 C（諸刊本に関しては本稿末の参考文献一覧を参照）のテキストに依っていたが、所々文意のとれない箇所もあったため、その他の諸刊本も参照しテキストを訂正した。諸刊本の校合に際しては、刊本 B, G の前半部分に関して鈴木が、後半部分に関して松浦が、また刊本 C, K, P に関して眞鍋が、それぞれテキストのチェックを行い、各々の成果に基づいて最終的に眞鍋の判断のもとテキストを訂正した。またテキストの訂正に応じて、眞鍋が訳も修正しながら本稿の試訳を作成した。したがって、テキストに関しても試訳に関しても、最終的な文責は眞鍋にある。

また Su のテキストに関して、BhG の引用部分をボールドで示したほ

か、Su が註釈文献であることを鑑みて、BhG の直接の引用がなく、かつシュリーダラが引用相当部分として提示していると判断しうる箇所に関しては、BhG の直接の引用でなくともボードルにしている箇所がある。また異読がある場合には、テキスト・試訳の後に note として提示してある。なお、Su が註釈文献であり、また BhG の構造を保持したまま註釈を付すという註釈方法を採用しているため、原文においては一つの長文として読解しうる箇所を、訳の容易さと文意の理解の容易さのために、試訳に際して複数の文に区切って訳した箇所が多々ある。さらに、Su が註釈文献であるという点から、本稿の試訳においては、日本語としての平易さよりもサンスクリット原文の雰囲気を持することを意図し、直訳的に訳を作成してある。

ところで、本稿においては、先行する BhG の諸註釈や彼の影響を受けたと考えられる後代の BhG の諸註釈との比較検討などを行っていない。またテキストを訂正したといえども、本稿で示したテキストは写本に基づく批判的なものではない。シュリーダラの BhG 理解を BhG の註釈史上に位置づけるためには、Su の批判的校訂テキストの作成と、彼の前後の BhG 諸註釈との比較研究が必須のものであるが、これらに関しては今後の課題としたい。さらに、Su 第六章の詳細な分析も今後の検討課題としたい。

2. テキストと試訳

開始の頃

citte śuddhe 'pi na dhyānaṃ vinā¹ samnyāsamātrataḥ /

muktiḥ syād iti śaṣṭhe 'smin dhyānayogo vitanyate //

心が清浄であったとしても、瞑想なくして、単なる放棄によつては解脱はあり得ないので、この第六 [章] において、瞑想のヨーガ（実践）が開陳される。

<note>

1 vinā BCGP] om. K.

行為のヨーガの称賛 (BhG 6.1-2)

pūrvādhyāyānte samkṣepeṇoktaṃ yogaṃ prapañcayituṃ śaṣṭhādhyāyārambhaḥ. tatra tāvat "sarvakarmāṇi manasā"¹ (BhG 5.13) ity ārabhya samnyāsapūrvikāyā jñānaniṣṭhāyās tātparyenābhidhānād duḥkhasvarūpatvāc² ca karmaṇaḥ sahasā samnyāsātiprasaṅgaṃ prāptaṃ vārayituṃ samnyāsād api³ śreṣṭhatvena karmayogaṃ stauti⁴ dvābhyām⁵ – **anāśrita** iti.⁶

前章の終わりにおいて簡潔に述べられたヨーガを詳説するために、第六章が開始される（第六章の開始がある）。ここ（第六章）で先ず、「全ての行為を心によって [放棄して] 」ということを始めとして [行為の] 放棄を前提とする知への従事（jñānaniṣṭhā）が趣意として表述されているので、また行為は苦をあり方とするので、急に [行為を] 放棄するという極端な帰結に [アルジュナが] 至ることを防ぐために、[行為の] 放棄よりも優れたものとして行為のヨーガ（実践）を二 [頌] によって讃える。執着しておらずと。

anāśritaḥ karmaphalaṃ kāryaṃ karma karoti yaḥ /

sa samnyāsī ca yogī ca na niragnir na cākriyaḥ // 1 //

行為の果報に依存しておらず、為されるべき行為を為す者、彼は放棄者であり、ヨーガ行者である。祭火を設置しない者が〔放棄者でありヨーガ行者であるのでは〕なく、また行為をしない者が〔放棄者でありヨーガ行者であるのでは〕ない。

karmaphalam anāśrito 'napekṣamāṇo⁷ 'vaśyaṃ kartavyatayā⁸ vihitam karma yaḥ karoti, sa eva saṃnyāsī yogī ca. na tu niragnir agnisādhyeṣṭākhyakarmatyāgī.⁹ na cākriyo 'nagnisādhyapūrtākhyakarmatyāgī ca // 1 //

行為の果報に依存していない、即ち〔行為の果報を〕期待していないものであって、必ず為されるべきものとして規定された行為を為す者、彼こそが放棄者であり、ヨーガ行者である。しかし、祭火を設置しない者、即ち祭火によって達成される願望（iṣṭa）と呼ばれる祭祀行為の放擲者は〔放棄者でもヨーガ行者でも〕ない。また、行為をしない者、即ち祭火によって達成されない慈善（pūrta）と呼ばれる行為の放擲者は〔放棄者でもヨーガ行者でも〕ない。

<note>

1 manasā BCGP] manasā sannyasya K. 2 duḥkhasarūpatvāc BC] duḥkharūpatvāc GKP. 3 saṃnyāsād api BCGP] saṃnyāsāpi K. 4 stauti BGK] stuvan CP. 5 dvābhyām C] śrībhagavān uvāca – anāśrita iti dvābhyām B, P; śrībhagavān – anāśrita iti dvābhyām G; anāśrita iti dvābhyām K. 6 anāśrita iti C] om. BGKP. 7 'prekṣamāṇo BCGP] 'pekṣamāṇaḥ sann K. 8 avaśyaṃ kartavyatayā BCG] avaśyaṃ kāryatayā K; avaśyakartavyatayā P. 9 agnisādhyeṣṭākhyakarmatyāgī BCGP] agnisādhyeṣṭyākhākarmatyāgī K.

kuta ity apekṣāyām¹ karmayogasyaiva saṃnyāsatvaṃ saṃpādayann² āha – **yaṃ** iti.

どうしてか、と〔理由が〕期待されるので、行為のヨーガこそが

放棄であることを確立するために述べる。或る，と。

yam samnyāsam iti prāhur yogaṃ taṃ vidhi pāṇḍava /
na hy asamnyastasaṃkalpo yogī bhavati kaścana // 2 //

パンドゥ [王] の息子よ， [諸天啓聖典が] 放棄と述べるもの，それをヨーガであると知れ。というのは， [果報を] 企てることを放棄していない如何なる者もヨーガ行者ではないから。

yam samnyāsam iti³ prāhuḥ prakarṣeṇa śreṣṭhatvenāhuḥ. "samnyāsa⁴ evātyarecayat"⁵ (TaitĀ 10.62 = MaNāU 21.2) ityādīśruteḥ.⁶ kevalāt phalasaṃnyasanād dhetoḥ **yogaṃ eva taṃ jānīhi.** kuta ity apekṣāyām itīśabdokto hetur yoge 'py astīty āha – **na hīti. na samnyastaḥ phalasaṃkalpo** yena sa⁷ karmaniṣṭho jñānaniṣṭho vā **kaścīd api na hi yogī bhavati.**⁸ ataḥ phalasaṃkalpatyāgasāmyāt⁹ **samnyāsi ca** phalasaṃkalpatyāgād eva cittavikṣepābhāvād **yogī ca** bhavaty eva **sa** ity arthaḥ // 2 //

[諸天啓聖典が] 放棄と述べるもの，とは非常に優れているものとして述べるということである。「放棄こそが過剰となった」等という天啓聖典があるから。単なる果報の放棄の故にそれをヨーガに他ならないと知れ。どうしてか，と [理由が] 期待されるので，「と」という語によって述べられた理由がヨーガにおいてもあることを述べる。というのは……ないから，と。その者によって果報を企てることが放棄されていない場合，彼が行為の従事者であれ，知の従事者であれ， [そのような] 如何なる者もヨーガ行者ではないから。従って，果報を企てることを放棄していることが等しいので，彼は放棄者であり，かつ (ca) 果報を企てることを放棄しているからこそ，心の攪乱が存在しないので， [同じ彼は] 必ずヨーガ行者である，という意味である。

<note>

1 apekṣāyām BCKP] apekṣāyā G. 2 sampāyann BCGP] pratipādayann K. 3 iti BCGP] om. K. 4 samnyāsa BCK] nyāsa GP. 5 evātyarecayat

BCGP] evety arecayat K. 6 ityādiśruteḥ BCGP] ityādiśrutaya iti K. 7
sa GKP] saḥ BC. 8 na hi yogī bhavati BCGP] yogī na hi bhavati K.
9 °sāmyāt CGP] °sāmyāt samnyāsāt BK.

知のヨーガの階梯に登った者 (BhG 6.3-9)

tarhi yāvajjīvaṃ karmayoga eva prāpta ity āśānkya tasyāvadhim āha – ā-
ruruḥṣor iti.

【反論】 そうであれば、生きている限り行為のヨーガのみが遂行される、という [反論を] 想定して、【答】 それ (行為のヨーガ) の限界を述べる。 登ろうとしていると。

āruruḥṣor muner yogaṃ karma kāraṇam ucyate /

yogārūḍhasya tasyaiva śamaḥ kāraṇam ucyate // 3 //

[知の] ヨーガ [の段階] に登ろうとしている聖者にとって、行為が [知のヨーガの段階に登る] 原因であると言われる。

[知の] ヨーガ [の段階] に登った同じその者にとって、平静さが [知の成熟の] 原因であると言われる。

jñānayogam āroḍhuṃ prāptum icchoḥ puṃsas¹ tadārohe kāraṇam ka-
rmocyate, cittaśuddhikaratvāt. jñānayogam ārūḍhasya tu tasyaiva jñā-
naniṣṭhasya² śamaḥ samādhiś cittavikṣepakakarmoparamo³ jñānaparipā-
ke kāraṇam ucyate // 3 //

知のヨーガ [の段階] に登ること、即ち達することを望んでいる人にとって、それ (知のヨーガ) に登ることに対する 原因は行為 であると言われる。 [行為は] 心の浄化をなすから。一方、知の ヨーガに登った、すなわち 同じその知の従事者 にとって、平静さ、即ち [心の] 集中、心を攪乱させる行為の消失が、知の成熟に対する 原因 であると言われる。

<note>

1 pumsas CGKP] pumas B. 2 jñānaniṣṭhasya BCGK] dhyānaniṣṭhasya
P. 3 cittavikṣepakakarmoparamo KP] cittavikṣepakakarmoparamo BCG.

kīdrśo 'sau'¹ yogārūḍho yasya śamaḥ kāraṇam ucyata ity atrāha – yadeti.²

【問】彼にとって平静さが〔知の成熟の〕原因であると言われる、そのヨーガ〔の段階〕に登った者とはどのような者か、という

【答】この点に関して答える。或る時と。

yadā hi nendriyārtheṣu na karmasv anuṣajjate /

sarvasaṃkalpasamnyāsī yogārūḍhas tadocyate // 4 //

〔彼は〕全ての〔果報に対する〕企てを放棄しているので、
感官の諸対象と諸行為に対して執着しない時、〔彼は〕ヨー
ガ〔の段階〕に登った者と言われる。

indriyārtheṣv indriyabhogyeṣu śabdādiṣu tatsādhaneṣu ca **karmasu ya-**
dā nānuṣajjata³ āsaktim na karoti. tatra hetuḥ – āsaktimūlabhūtān **sa-**
rvān bhogaviṣayān karmaviṣayāṃś ca **saṃkalpān saṃnyasitum** tyaktum
śīlam yasya saḥ. **tadā yogārūḍha ucyate // 4 //**

感官の諸対象，即ち諸の感官によって享受される音声等に対して、
またそれらの手段である諸行為に対して，或る時〔彼が〕執着し
ない，即ち執着を為さない，ということである。そのことに対する
理由は〔以下のようなものである〕。その者が、執着を根本とする全
ての，即ち諸の〔感官による〕享受を対象とし，また諸の行為を
対象とする企てを放棄すること，即ち捨てることを性向とする、
そのような者が〔全ての果報に対する企てを放棄した者である〕。
その時，〔彼は〕ヨーガに登った者と言われる。

<note>

1 'sau BCGP] 'yam K. 2 yadeti CK] yadā hīti BGP. 3 nānuṣajjate
BCGP] mānuṣajjate K.

ato viṣayāsaktityāge mokṣaṃ tadāsaktau ca bandhaṃ paryālocya rāgādi-
svabhāvaṃ tyajed ity āha – **uddhared** iti.

それから、対象への執着を捨てた時に解脱があることを、またそれ（対象）への執着がある時に束縛があることを考察してから、愛着等という本質を捨てるべきである、ということ述べる。引き抜くべきであると。

uddhared ātmanātmānaṃ nātmānaṃ avasādayet /

ātmaiva hy ātmano bandhur ātmaiva ripur ātmanaḥ // 5 //

自身によって自身を〔輪廻から〕引き抜くべきである。自身を〔輪廻に〕沈めるべきではない。というのも、自身のみが自身の味方であり、自身のみが自身の敵であるから。

ātmanā vivekayuktenātmānaṃ saṃsārād **uddharet. na tv avasādayet**
adho na nayet. **hi** yasmād¹ **ātmaiva** manaḥsaṃgādyuparata² **ātmanaḥ**
svasya **bandhur** upakāraḥ, **ripur** apakāraś³ ca // 5 //

識別〔知〕と結びついた自身によって、自身を輪廻から引き抜くべきである。一方、〔自身を輪廻に〕沈めるべきではない、即ち下方に導くべきではない。というのも、即ち何故なら、思考器官（心）への執着等が消失した自身のみが、自身の、即ち自分の味方、即ち裨益者であり、また敵、即ち害を為す者であるから。

<note>

1 yasmād BCGP] yata K. 2 manaḥsaṃgādyu° CP] manaḥsaṃgād u° BG; manasaḥ saṃgādyu° K. 3 apakāraś BCKP] akāraś G.

kathambhūtasyaātmaiva bandhuḥ kathambhūtasya cātmaiva ripur ity ape-
kṣāyām āha – **bandhur** iti.

【問】どのような者にとって自身のみが味方であり、またどのような者にとって自身のみが敵であるのか、という〔点に対する答

えが] 期待されているので，【答】答える．味方と．

bandhur ātmātmanas tasya yenātmaivātmanā jitaḥ /
anātmanas tu śatrutve vartetātmaiva śatruvat // 6 //

その自身によって，自身こそが克服されている，そのような自身にとって自身は味方である．一方，自身でないものにとって，自身こそが敵のように敵として振る舞うだろう．

yenātmanaivātmā kāryakāraṇasaṃghātarūpo **jito** vaśīkr̥tas tasya tathā-
bhūtasyātmāna **ātmaiva bandhuḥ**. **anātmano** 'jitātmanas **tv ātmaivā-**
tmanas śatrutve śatruvad apakārakāritve **varteta** // 6 //

その他ならぬ自身によって，身体と器官の集合をあり方とする自身
が克服されている，すなわち制圧されている，そのようなもの
であるその自身にとって自身のみが味方である．一方，自身でないもの，
即ち自身を克服していないものにとって，自身こそが，
敵のように，自身の敵として，即ち害を為す者として振る舞うだ
ろう．

jitātmanas svasmin bandhutvaṃ¹ sphuṭayati – **jitātmana** iti.

自身を克服したものは，自身に対する味方であることを明らかに
する．自身を克服した者にとってと．

jitātmanas praśāntasya param ātmā samāhitaḥ /
śītoṣṇasukhaduḥkheṣu tathā mānāpamānayoḥ // 7 //

自身を克服した，平静な者にとって，ただ自身は統制されて
いる．寒暑や苦楽の場合も，毀誉褒貶の場合も同様である．

jita ātmā yena tasya **praśāntasya** rāgādirahitasyaiva **param** kevalam
ātmā śītoṣṇādiṣu satsv api **samāhitaḥ** svātmaniṣṭho² bhavati nānyasya.
yad vā tasya hr̥di **paramātmā samāhitaḥ** sthito bhavati // 7 //

その者によって自身が克服されている，その平静な者，即ち他な

らぬ愛着等を欠いた者にとって、アートマンは、寒暑等がある場合でも、ただ、即ち単に統制されている、即ち自分自身に安住している。〔一方〕他の者にとって〔自身がただ集中しているのでは〕ない。或いは、彼の心臓において最高のアートマンは確立して、すなわち存立している。

<note>

1 bandhutvaṃ BCGK] badhutvaṃ P. 2 svātmaniṣṭho BCGP] ātmaniṣṭho K.

yogārūḍhasya lakṣaṇaṃ śraīṣṭhyaṃ coktam upapādyopasaṃharati¹ – **jñānavijñānatṛptātmēti.**²

ヨーガ〔の段階〕に登った者の上述の定義的特質と優越性を証明してから、結論づける。自身が教示的知と直感的知に満足したと。

jñānavijñānatṛptātmā kūṭastho vijitendriyaḥ /

yukta ity ucyate yogī samaloṣṭāśmakāñcanaḥ // 8 //

自身が教示的知と直感的知に満足し、不変であり、感官を克服し、土塊・石・黄金を等しく〔見る〕ヨーガ行者は、専心した者と言われる。

jñānam aupadeśikaṃ **vijñānam** aparokṣānubhavas tābhyāṃ **tṛpto** nirā-kāṅkṣa **ātmā** cittaṃ yasya. ataḥ **kūṭastho** nirvikāraḥ. ata eva **vijitānīndriyāṇi** yena. ata eva **samāni loṣṭādīni** yasya. mṛtpiṇḍapāśānasuvarṇeṣu³ heyopādeyabuddhīśūnyaḥ. sa **yukto** yogārūḍha **ity ucyate** // 8 //

教示的知とは教示されたものであり、直感的知とは直接的経験であり、その者の（yasya）自身、即ち心がそれらに満足した、即ち〔それ以上のものを〕望まない、ということである。従って〔彼は〕不変である、即ち変化をしない。同じ理由から、その者によって（yena）諸感官が克服されている。同じ理由から、その者にとって（yasya）土塊等が等しいものである。土塊・石・黄金に対

する捨てる・取るという意識を欠いている者ということである。
[以上のような] 彼は専心した者，即ちヨーガ [の段階] に登った者と言われる。

<note>

1 coktam upapādyopasaṃharati BCG] coktam upasaṃharati KP. 2 jñānavijñānatṛptātmeti BCGP] jñāneti K. 3 mṛtṛpiṇḍa° BCP] mṛtkhaṇḍa° GK.

suhṛṇmitrādiṣu samabuddhiyuktas tu¹ tato 'pi śreṣṭha ity āha – **suhṛd** iti.
一方，親しい者や友人等に対する平等意識と結びついた者は，彼よりも優れているということを述べる。親しい者と。

suhṛṇmitrāryudāsīnamadhyasthadveṣyabandhuṣu /

sādhuṣv api ca pāpeṣu samabuddhir viśiṣyate // 9 //

親しい者，友人，敵，無関心な者，中立者，嫌いな者，縁者，そして善人たちや悪人たちに対しても，平等意識を持つ者は優れている。

suhṛt svabhāvenaiva hitāśamsī.² **mitraṃ** snehavaśenopakāraḥ. **arir** ghātakaḥ.³ **udāsīno** vivadamānayor ubhayor apy upekṣakaḥ. **madhya-** **stho** vivadamānayor ubhayor⁴ api hitāśamsī. **dveṣyo** dveṣaviṣayaḥ. **bandhuḥ**⁵ sambandhī. **sādhavaḥ** sadācārāḥ. **pāpā** durācārāḥ. eteṣu **samā** rāgadveṣādīśūnyā **buddhir** yasya sa tu **viśiṣṭaḥ** // 9 //

親しい者とは，本質だけによって [相手の] 利益を望む者である。友人とは，愛着によって [相手を] 裨益する者である。敵とは，[相手の] 破壊者である。無関心な者とは，相反する [相手の] 両者ともにに関して関心のない者である。中立者とは，相反する [相手の] 両者ともにに関して利益を望む者である。嫌いな者とは，[相手にとって] 嫌悪の対象である。縁者とは [相手と] 類縁関係を持つ者である。善人たちとは，正しく振る舞う者たちである。

悪人たちとは、悪しく振る舞う者たちである。一方、彼等に対して平等な、好悪等を欠いた意識がある者、彼は優れた者である。

<note>

1 tu CKP] om. BG. 2 hitāśamsī CGKP] hitāśasī B. 3 ghātakaḥ CKP] ghātukaḥ BG. 4 ubhayaḥ CGKP] om. B. 5 bandhuḥ BCGP] bandhu K.

ヨーガの規定 (BhG 6.10-32)

evaṃ yogārūḍhasya lakṣaṇam uktvedānīm¹ tasya sāṅgaṃ yogaṃ² vidhatte **yogītyādinā** "sa yogī paramo mataḥ" (BhG 6.32) ity antena granthena – **yogīti**.³

以上のように、ヨーガ [の段階] に登った者の定義的特質を述べてから、続いて、彼にとっての支分を持つヨーガを、ヨーガ行者は、から「彼は最高のヨーガ行者と認められる」までの文章によって規定する。ヨーガ行者とは。

yogī yuñjīta satatam ātmānaṃ rahasi sthitaḥ /
ekākī yatacittātmā nirāśīr aparigrahaḥ // 10 //

ヨーガ行者は、秘密の場所に一人で止まって、心と自身を制し、願望なく、所有なく、絶え間なく自身に専心すべきである。

yogī yogārūḍhaḥ. **ātmānaṃ** mano **yuñjīta** samāhitaṃ kuryāt. **satatam** nirantaram. **rahasy** ekānte **sthitaḥ** san. **ekākī** saṃgaśūnyaḥ. **yataṃ** saṃyatam **cittam ātmā** dehaś ca yasya. **nirāśīr**⁴ nirākāṅkṣo nirāhāro vā.⁵ **aparigrahaḥ** parigrahaśūnyaś ca // 10 //

ヨーガ行者とはヨーガ [の段階] に登った者である。自身に、即ち心を専心すべき、即ち集中した [状態] にすべきである。絶え間なく、即ち間断なく、である。秘密の場所、即ち孤独な場所に留まっていてということである。一人で、即ち集団を離れて、

である。その者の（*yasya*），心と自身，即ち身体が制されている，即ち抑制されている，ということである。願望のない者とは願いを欠いている者，或いは断食した者である。また所有しない者とは，所有を欠いた者である。

<note>

1 uktvedānīm BCGP] uktedānīm K. 2 sāṅgaṃ yogaṃ CKP] sāṅgayogaṃ BG. 3 yogīti BCGP] om. K. 4 nirāśīr CGKP] nirāśī B. 5 nirāhāro vā BCG] om. KP.

āsanaṇiyamaṃ darśayaṇ āha¹ – śucāv iti dvābhyām.

座の規定を示すために，清浄な，という二〔頌〕によって述べる。

śucau deṣe pratiṣṭhāpya sthiram āsanam ātmanaḥ /
nātyucchritaṃ nātīnīcam cailājīnakuśottaram // 11 //
tatraikāgraṃ manaḥ kṛtvā yatacittendriyakriyaḥ /
upaviśyāsane yuñjyād yogaṃ ātmaviśuddhaye // 12 //

〔ヨーガ行者は〕堅固で，高すぎず，低すぎない，布と皮がクシャ〔草〕の上にある自身の座を清浄な場所に設けてから，その座に坐って，思考器官を一点に集中させ，心と感官の作用を抑制し，自身を清浄にするためにヨーガに専心すべきである。

śuddhe sthāna ātmanaḥ svasyāsanam sthāpayitvā. kīdrśam. sthiram acalam² nātīvonnatam³ na cātīnīcam.⁴ cailam⁵ vastram. ajīnam vyāghrādicarma. cailājīne⁶ kuśebhya uttare yasmin.⁷ kuśānām upari carma tad upari vastram āstīryety arthaḥ // 11 //

清浄な場所に，自身の，即ち自分の座を布いてからということである。どのような〔座〕か。堅固で，即ち不動で，高すぎない，また低すぎないのものである。布とは布である。皮とは，虎等の皮である。クシャ〔草〕の上に布と皮があるもの〔それが布と皮が

クシャ [草] の上にあるものということである] . クシャ [草] の上に皮を, その上に布を広げるべきである (āvstr), という意味である.

tatreti. tatra tasminn āsana upaviśyaikāgram vikṣeparahitaṃ manah kṛtvā yogam yuñjyād abhyaset. yatāḥ saṃyatās⁸ cittasyendriyāṇāṃ ca kriyā yasya saḥ.⁹ ātmano manaso viśuddhaya upaśāntaye // 12 //

そこに [以下を註釈する] . そこ, 即ちその座に坐ってから, 思考器官 (心) を一点に [集中させ] 即ち攪乱を欠いたものにさせて, ヨーガに専心すべきである, 即ち [ヨーガを] 繰り返すべきである. その者の (yasya) 心と諸感官の諸作用が抑制されている, 即ち制されている, そのような者が [心と感官の作用を抑制した者である] . 自身を, 即ち思考器官を清浄にするために, 即ち鎮めるためにということである.

<note>

1 śucāv iti dvābhyām BGK] dvābhyām. śucāv iti C; śucāv iti P. 2 acalam BCGP] acañcalam K. 3 nātīvonnatam BCGP] nātyucchritam K. 4 cātīnīcam GKP] cātīnīcam ca BC. 5 cailam BCGP] celam K. 6 cailājine BCGK] celājine K. 7 Yasmin BCGP] yasya K. 8 saṃyatās BCK] uparātās GP. 9 saḥ CGP] om. BK.

cittaikāgryopayoginīm dehādihāraṇām darśayann āha – **samam** iti dvābhyām¹.

心を一点に [集中させること] に適している, 身体等を [真っ直ぐに] 保つことを示すために, 真っ直ぐにという二 [頌] によって述べる.

samaṃ kāyaśirogrīvaṃ dhārayann acalam sthiraḥ /
sāmprekṣya nāsikāgram svaṃ diśāś cānavalokayan // 13 //
praśāntātmā vigatabhīr brahmacārivrate sthitaḥ /

manaḥ saṃyamyā maccitto yukta āsīta matparaḥ // 14 //

〔ヨーガ行者は〕胴体と頭と首を真っ直ぐに、不動に保ちつつ、堅固な者〔となって〕、自身の鼻の先を凝視してから、また諸方を見ないで、自身を全く鎮め、恐れを離れ、梵行者（学生期）の誓戒に留まって、思考器官（心）を制してから、私へ〔向かう〕心を持ち、私を目的とし、専心して座すべきである。

kāya iti dehasya madhyabhāgo² vivakṣitaḥ. **kāyaś ca śiraś ca grīvā ca kāyaśirogrīvam**. mūlādhārād ārabhya mūrdhāntaparyantaṃ³ **samam** avakram **acalaṃ**⁴ niścalaṃ **dhārayan sthiro** dṛḍhaprayatno bhūtvety arthaḥ. **svakīyaṃ**⁵ **nāsikāgraṃ samprekṣyeti**⁶ cārḍhanimīlitanetra⁷ ity arthaḥ. itas tato **dīśaś cānavalokayann āsītety** uttarenānvayaḥ // 13 //

胴体とは、身体の中央の部分が意図されている。体と頭と首とで体と頭と首である。背骨の付け根（mūlādhāra）から頭頂（mūrdhānta）にいたるまでを真っ直ぐに、即ち曲げずに、不動に、即ち動かずに保ちつつ、堅固な者、即ち堅固な努力を持つ者となって、という意味である。自分の鼻の先を凝視して、とは目を半分と閉じた、という意味である。そしてそれから、また諸方を見ないで座すべきである、と後の〔頌〕と結びつく。

praśānteti. praśānta ātmā cittaṃ yasya. **vigatā bhīr** bhayaṃ yasya. **brahmacārivrate** brahmacārye **sthitaḥ** san. **manaḥ saṃyamyā** pra-tyāhṛtya. **mayy eva cittaṃ** yasya. aham eva **paraḥ** puruṣārtho yasya sa **matparaḥ**. evaṃ **yukto bhūtvāsīta** tiṣṭhet // 14 //

全く鎮まった〔以下を註釈する〕。その者の（yasya）自身、即ち心が全く静まっている、〔そのような者が、自身が全く鎮まった者である〕。その者にとって（yasya）恐れ、即ち恐怖が離れている、〔そのような者が恐れを離れた者である〕。学生の誓戒、即ち純潔行に留まっていたということである。思考器官を制してから、即ち〔思考器官の対象から思考器官を〕引き戻してからということである。その者の（yasya）心が私だけに〔向けられてい

る] , [そのような者が私への心を持つ者である] . その者にとって (yasya) 私のみが目的 , 即ち人間の目的である , そういった者が私を目的とする者である . 以上のように専心した者となつてから座すべきである , 即ち坐るべきである .

<note>

1 samam iti dvābhyām BGK] dvābhyām. samam iti CP. 2 dehasya madhyabhāgo K] dehamadhyabhāgo BCGP. 3 mūrdhāntaparyantaṃ CGP] mūrdhāraparyantaṃ BK. 4 acalaṃ CGP] om. BK. 5 svakīyaṃ BCG] svīyaṃ KP. 6 saṃprekṣyeti GCP] saṃprekṣya BK. 7 cā° BGK] om. CP.

yogābhyāsaphalam āha – **yuñjann evam iti.**

ヨーガの繰り返しの果報を述べる . 以上のように専心しつつと .

yuñjann evaṃ sadātmānaṃ yogī niyatamānaśaḥ /

śāntiṃ nirvāṇaparamāṃ matsaṃsthāṃ adhigacchati // 15 //

以上のように , 自身に専心しつつ , ヨーガ行者は常に思考器官を制して , 涅槃を極致とし , 私を状態とする寂靜に達する .

evam uktaparakāreṇa **sadātmānaṃ** mano **yuñjan** samāhitaṃ kurvan, **niyataṃ** niruddhaṃ **mānaśaṃ** cittaṃ yasya saḥ, **śāntiṃ** saṃsāroparatiṃ¹ prāpnoti.² **kathaṃbhūtaṃ. nirvāṇaṃ paramaṃ prāpyaṃ yasyāṃ tām matsaṃsthāṃ** madrūpeṇāvasthitim // 15 //

以上のように , 即ち上述のあり方で , 常に自身に , 即ち思考器官に専心しつつ , 即ち [思考器官を] 集中したものに為しつつということである . その者の (yasya) 思考器官 , 即ち心が制せられた , 即ち抑制されている , そのような者が [思考器官を制した者であり] , 寂靜に , 即ち輪廻の止滅に達する . [その寂靜とは] どのようなものか . そこにおいて (yasyāṃ) 涅槃が極地である , 即ち達せられるべきものである , そのようなものである (tām) , 私を状態とする , 即ち私をあり方とする状態である .

<note>

1 saṃsāroparatim BCG] saṃsāroparamaṃ KP. 2 prāpnoti BCGP] prapnoti K.

yogābhyāsaniṣṭhasyāhārādiniyamam āha – neti dvābhyām¹.

ヨーガの繰り返しに従事している者の摂食等の規定を、ないという二 [頌] によって述べる。

nātyāśnatas tu yogo 'sti na caikāntam anaśnataḥ /
na cātisvapnaśīlasya jāgrato naiva cārjuna // 16 //

しかし、食べ過ぎる者にはヨーガはなく、また全く食べない者に [もヨーガは] なく、また睡眠を取り過ぎる傾向にある者に [もヨーガは] なく、また [過度に] 起きている者に [もヨーガは] 決してない。アルジュナよ。

atyantam adhikaṃ bhuñjānasya. **ekāntam** atyantam abhuñjānasyāpi **yogaḥ** samādhir **na** bhavati. tathātīnīdrāśīlasya **yātijāgrataś ca yogo naivāsti** // 16 //

過度に、即ち過剰に食べる者に、ということである。全く、即ち過度に食べない者にもヨーガ、即ち集中は存在しない。同様に、過度に眠る傾向にある者と過度に起きている者にもヨーガは決して存在しない。

<note>

1 neti dvābhyām BG] dvābhyām. neti CP; nātyāśnata iti dvābhyām K.

tarhi kathambhūtasya yogo bhavātīty ata āha¹ – **yukteti**.²

【問】 その場合、どのような者にヨーガがあるのか、というので

【答】 それ故に答える。適切な者と。

yuktāhāravihārasya yuktaceṣṭasya karmasu /
yuktasvapnāvabodhasya yogo bhavati duḥkhaḥā // 17 //

摂食や散策が適切である者、諸行為において行動が適切である者、睡眠や覚醒が適切である者に、苦を滅すヨーガが生じる。

yukto niyata **āhāro vihāras** ca gatih yasya. **karmasu** kāryeṣu **yuktā** niyataiva³ **ceṣṭā** yasya. **yuktau** niyatau **svapnāvabodhau** nidrājāgarau yasya tasya **duḥkhanivartako yogo bhavati** sidhyati // 17 //

その者の摂食（食事）と散策，即ち〔歩〕行が適切である，即ち制御されている（定まっている），〔そのような者が摂食や散策が定まった者〕である．諸行為において，即ち為されるべきことにおいて，その者の行動が適切である，即ち全く制御されている，〔そのような者が諸行為において行動が適切である者〕である．その者の睡眠と覚醒，即ち眠りと起きていることが適切である，即ち制御されている，そのような者に苦を止滅するヨーガが生じる，即ち成立する。

<note>

1 āha BCGP] āha yuktāhāreti K. 2 yukteti BCGP] om. K. 3 niyataiva BCGP] niyatā K.

kadā niṣpannayogaḥ puruṣo bhavatīty apekṣāyām āha – **yadeti**.

【問】人はいつヨーガを完成した者となるのか，という〔疑問に対する答えが〕期待されるので【答】答える．或る時と。

yadā viniyataṃ cittam ātmany evāvatiṣṭhate /
niḥspṛhaḥ sarvakāmebhyo yukta ity ucyate tadā // 18 //

〔ヨーガ行者の〕よく制御された心が自身のみにおいて安住しており，〔そのヨーガ行者が〕全ての欲望を絶っている時，

[彼は] 専心した者と言われる。

viniyatam viśeṣeṇa niruddham sac cittam ātmany eva yadā niścalaṃ tiṣṭhati. kiṃ ca **sarvakāmebhya** aihikāmuṣmikabhoge**bhyo niḥspṛho**¹ **vigatatrṣṇo bhavati tadā yuktaḥ**² **prāptayo ity ucyate** // 18 //

よく制御された，即ち非常に抑止されている心が，自身のみにおいて動かずに留まっており，さらに，[ヨーガ行者が] 全ての欲望，即ち今生と来世の諸享受を絶っている，即ち渴望を離れている時，その時 [彼は] 専心した者，ヨーガに至った者とと言われる。

<note>

1 niḥspṛho CGKP] om. B. 2 yuktaḥ GKP] om. B; yuktaḥ samāhitacittaḥ C.

ātmaikākāratayāvasthitasya¹ **cittasyopamānam āha – yatheti.**

アートマンのみを形相とする状態にある心に関する類推を述べる。例えばと。

yathā dīpo nivāstho neṅgate sopamā smṛtā /
yogino yatacittasya yuñjato yogam ātmanaḥ // 19 //

例えば，風のないところにある灯火が揺るがないこと，それは，心を制御し，アートマンに関するヨーガに専心しているヨーガ行者に関する類推であると伝えられている。

vātaśūnye deśe sthito dīpo yathā neṅgate na vicalati² **sopamā drṣṭāntaḥ.** kasya. **ātma viśayaṃ yogaṃ yuñjato** 'bhyasato³ **yoginaḥ.** **yataṃ niyatam cittam** yasya tasya niṣkampatayā prakāśakatayā ca **cittam**⁴ **tadvat tiṣṭhātīy arthaḥ** // 19 //

風のない場所にある灯火が，例えば揺るがない，即ち動揺しないこと，それは類推，即ち実例である。何に関してのか。アートマンを対象とするヨーガに専心している，即ち [ヨーガを] 繰り返

しているヨーガ行者に関するものである。その者の心が制御された、即ち抑制された、そのような者の、不動なものとして、また照らし出すものとしての心は、それ [灯火] のようにあるという意味である。

<note>

1 ātmāikā° BK] ātmaikyā° CGP. 2 vicalati BCGP] calati K. 3 'bhyasato BCP] 'bhyasyato GK. 4 cittam CP] cañcalaṃ yac cittam B; acañcalaṃ tac cittam BK.

"yaṃ saṃnyāsam iti prāhur yogaṃ taṃ vidhi pāṇḍava" (BhG 6.2) ityā-dau karmaiva yogaśabdenoktam. "nātyaśnatas tu yogo 'sti" (BhG 6.16) ityā-dau tu samādhir yogaśabdenoktaḥ. tatra mukhyo yogaḥ ka ity ape-kṣāyāṃ samādhim eva svarūpataḥ phalataś ca lakṣayan sa eva mukhyo yoga ity āha – **yatreti sārđhais tribhiḥ**.¹

【問】「パーンドゥ [王] の息子よ， [諸天啓聖典が] 放棄と述べるもの，それをヨーガであると知れ」等においては祭祀行為こそがヨーガという語によって述べられている。一方，「しかし，食べ過ぎる者にはヨーガはない」等においては [心の] 集中がヨーガという語によって述べられている。このうち，どちらが一義的なヨーガなのか，という [問いに対する答えが] 期待されているので，【答】 [心の] 集中こそを，本質に基づいても結果に基づいても定義づけつつ，それ (集中) こそが一義的なヨーガであるということ，そこにおいて (yatra)，と三 [頌] と半 [頌] によって述べる。

yatroparamate cittam niruddham yogasevayā /
yatra caivātmanātmānaṃ paśyann ātmani tuṣyati // 20 //
sukham ātyantikam yat tad buddhigrāhyam atīndriyam /
vetti yatra na caivāyaṃ sthitaś calati tattvataḥ // 21 //
yaṃ labdhvā cāparam lābham manyate nādhikam tataḥ /

yasmin sthito na duḥkhena guruṇāpi vicālyate // 22 //

taṃ vidyād duḥkhasaṃyogavīyogaṃ yogasaṃjñitam /

sa niścayena yoktavyo yogo 'nirviṇṇacetasā² // 23 //

そこにおいて（yatra），ヨーガに従事することで抑止された心が鎮まり，またそこにおいて（yatra），自身によって自身を見つつ自身において満足し，〔また〕そこにおいて（yatra）留まった彼が，究極的であり，感官を超えた，統覚によって把握される楽であるもの，それを知り，また真実から決して逸脱することがなく，〔何故なら〕それ（yam）を得てから他の利益をそれより良いものと考えない〔から〕，またそこにおいて（yasmin）留まっている者が，重大な苦によっても動揺させられない，そのようなものを，苦との結合からの分離であり，ヨーガと呼ばれるものと知れ．そのヨーガが，確定を通じて厭わない心で専心されるべきである．

**yatra yasminn avasthāviśeṣe yogābhyāseṇa niruddhaṃ cittam upara-
taṃ bhavātīti yogasya³ svarūpalakṣaṇam uktam. tathā ca pātañjalam sū-
tram "yogaś cittavṛttinirodhaḥ" (YS 1.2) iti. iṣṭaprāptilakṣaṇena phalena⁴
tam eva lakṣayati. **yatra ca⁵ yasminn avasthāviśeṣa ātmanā śuddhena
manasātmānam eva paśyati na tu dehādi. paśyamś cātmany eva tuṣyati
na tu viṣayeṣu. yatretyādīnām yacchabdānām "taṃ⁶ yogasaṃjñitam vi-
dyāt"** iti caturthenānvayaḥ // 20 //**

そこにおいて，即ちその特定の状態において，ヨーガの繰り返しによって抑止された心が鎮まったものになる，とヨーガの本質的定義的特質が述べられた．また同様にパタンジャリのスートラがある．「ヨーガとは心の活動の抑止である」と．好ましいことの獲得を定義的特質とする結果によって，それ（ヨーガ）を定義づける．またそこにおいて，即ちその状態において，自身によって，即ち純粋な思考器官（心）によって自身のみを見て，一方，身体を〔見てでは〕ない．そして，見つつ，自身のみにおいて満足し，一方，諸対象において〔満足するのでは〕ない．そこにおいて等というそれ（yat）という諸の語は，「それをヨーガと呼ばれるも

のであると知れ」という第四〔頌〕と結びつく。

ātmany eva toṣe hetum āha – **sukham** iti. **yatra** yasminn avasthāviśeṣe **yat tat** kim api niratīśayam **ātyantikam** nityam **sukham** vetti. nanu tadā viṣayendriyasambandhābhāvāt kutaḥ sukham syāt. tatrāha – **atīndriyam** viṣayendriyasambandhātītam. kevalam **buddhyaivātmākāratayā grāhya-**
m. ata eva ca **yatra sthitaḥ** samś **tattvata** ātmasvarūpān **naiva calati** // 21 //

自身のみにおいて満足することに対する根拠を述べる。楽と。そこにおいて (yatra)、即ちその特定の状態において、何らかの (yat tat)、即ち何であつても非常に卓越した、究極的な、即ち常住な楽を知る。【反論】その場合、対象と感官の結合が存在しないので、どうして楽があろうか。【答】この点に対して答える。感官を超えたもの、即ち対象と感官の結合を超えたものである。単に、アートマンを形相とする統覚のみによって把握されるものである。また同じ理由で、そこに留まっている者は、真実から、即ちアートマンの本質から決して逸脱しない。

acalatvam evopapādayati – **yam** iti. **yam** ātmasukharūpalābham⁷ **labdhvā tato 'dhikam** **aparam** **lābham** **na manyate** na cintayati⁸ tasyaiva niratīśayasukhatvāt. **yasmimś ca sthito** mahatāpi śītoṣṇādīduḥkhena **na vicālyate** nābhibhūyate. etenāniṣṭhanivṛttiphalenāpi yogalakṣaṇam⁹ uktam draṣṭavyam // 22 //

決して逸脱しないことを証明する。それ (yam) と。それ、アートマンたる楽をあり方とするものの獲得を得てから、それよりも良い他のものを獲得することを考えない、即ち思わない。それが非常に卓越した楽であるから。また、そこにおいて留まった者は、大いなる寒暑等による苦によつても動揺させられない、即ち圧倒されない。以上のことから、好ましくないことの停止という結果によつても、ヨーガの定義的特質が述べられたと見られるべきである。

ya evambhūto 'vasthāviśeṣas tam āha – tam ity ardhena. **duḥkhaśabde-**
na¹⁰ duḥkhamīśritatvād¹¹ vaiśayikaṃ sukham api gṛhyate. **duḥkhasya**
saṃyogena sparsāmātreṇāpi¹² **viyogo** yasmimś tam avasthāviśeṣaṃ **yo-**
gasamjñitam yogaśabdavācyam¹³ jānīyāt. paramātmanā¹⁴ kṣetrajñāsya
yojanam **yogaḥ**. yad vā **duḥkhasaṃyogena**¹⁵ **viyoga** eva śūre kātaraśa-
bdavad viruddhalakṣaṇayā **yoga** ucyate. karmaṇi tu yogaśabdas tadupā-
yatvād aupacārika eveti bhāvaḥ.

yasmād evam mahāphalo yogas tasmāt sa eva yatnato 'bhyasanīya ity āha
– sa iti sārdhena. **sa yogo niścayena** śāstrācāryopadeśajanitena **yokta-**
vyo 'bhyasanīyaḥ. yady api śīghraṃ na sidhyati tathāpy **anirviṇṇena** ni-
rvedarahitena¹⁶ **cetasā yoktavyaḥ**. duḥkhabuddhyā prayatnaśaithilyam
nirvedaḥ // 23 //

以上のようなものである特定の状態を述べる。それをという半
[頌]によって。苦という語によって、苦と交ざっているので感
覚的な楽も把握される。それにおいて（yasmin）、苦が結合と、
[その結合が]単なる接触であっても、分離する、その特定の状
態をヨーガと呼ばれるもの、即ちヨーガと述べられるものと知れ。
最高のアートマンと田地を知るものが結びつくことがヨーガであ
る。或いはまた、苦との結合がないことこそが、英雄における臆
病という語のように、矛盾を間接的に示すことによってヨーガと
言われている。一方、諸祭祀行為を意味するヨーガという語は、
それ（諸祭祀行為）を手段とするので、二義的表現に他ならない、
ということである。

以上のように、ヨーガは大いなる果報を持つので、それ故に、そ
れこそが努力によって繰り返されるべきである、ということを述
べる。そのという半[頌]によって。そのヨーガが、確定を通じ
て、即ち教示書と先生による教示から生じたものを通じて専心さ
れるべきである、即ち繰り返されるべきである。もしも、素早く
達成されないとしても、そのようであっても、厭わない、即ち憂
鬱さを欠いた心によって専心されるべきである。困難という意識
によって、努力が緩むことが憂鬱さである。

<note>

1 yatreti sārdhais tribhiḥ BGKP] sārdhais tribhiḥ. yatreti C. 2 'nirvi-
ṇṇacetasā CGKP] nirviṇṇacetasā B. 3 niruddhaṃ cittam uparataṃ bhava-
tīti yogasya BCGP] om. K. 4 iṣṭaprāptilakṣaṇena phalena BCGP] iṣṭaprā-
ptilakṣaṇe niruddhaṃ cittam uparataṃ bhavatīti yogasya K. 5 ca BCKP]
om. G. 6 taṃ BCGP] om. K. 7 yam ātmasukhalābhaṃ BC] yam ātma-
sukhaṃ lābhaṃ GP; yayātmasukhasvarūpaṃ K. 8 na cintayati BCG] om.
KP. 9 yogalakṣaṇam BCG] yogasya lakṣaṇam KP. 10 duḥkhaśabdena
BCGP] duḥkhasaṃyogavīyogaṃ yogasaṃjñitavidyāt. duḥkhaśabdena K.
11 duḥkhamiśritatvāt BCGP] duḥkhamiśritaṃ K. 12 sparśamātreṇāpi
BCGP] saṃsparśamātreṇāpi K. 13 yogaśabdavācyaṃ BCGP] yogaśabdā-
vācyaṃ K. 14 paramātmanā BCGP] paramātmani K. 15 duḥkhasaṃ-
yogena BCGP] duḥkhasya saṃyogena K. 16 nirvedarahitena BCGP]
nirvedarahite K.

kiṃ ca –

また、

saṃkalpaprabhavān kāmāṃs tyaktvā sarvān aśeṣataḥ /
manasaivendriyagrāmaṃ viniyamyā samantataḥ // 24 //

企てから生じる全ての欲望を残らず放棄してから、思考器官
(心) のみによって感官の群れを完全に制御してから、 [ヨ
ーガが専心されるべきである] .

saṃkalpeti. saṃkalpāt prabhavo yeṣāṃ tān yogapratikūlān sarvān kāmān aśeṣataḥ savāsanāṃs tyaktvā manasaiva viśeṣeṇa niyamyā yogo yuktavya iti pūrveṇānvayaḥ // 24 //

企て [以下を註釈する] . それらに (yeṣāṃ) 企てから生じるもの

がある、そのような（tān）ヨーガと対立する全ての欲望を残りなく、潜勢力とともに放棄してから、対象の過失を見る思考器官のみによって、四方に広がっている感官の集まりを完全に制御してから、ヨーガが専心されるべきである。

yadi tu prāktanakarmasamskāreṇa mano vicalet tarhi dhāraṇayā sthīrikuryād ity āha – śānair iti.

一方、もしも以前の祭祀行為の潜在印象によって思考器官が動揺するとすれば、その場合、[心は]保持されることによって堅固と為されるべきである、ということ述べる。次第にと。

śānaiḥ śānair upamed buddhyā dhṛtiḥgrhīṭayā /
ātmasamsthāṃ manaḥ kṛtvā na kiṃcid api cintayet // 25 //

堅固に把握された統覚によって思考器官を自身に確立させて、次第次第に静寂に達すべきである。如何なるものをも思うべきではない。

dhṛtir dhāraṇā tayā grhīṭayā vaśīkṛtayā buddhyātmasamsthāṃ ātmany eva samyak sthītaṃ niścalaṃ manaḥ kṛtvoparamet. tac ca¹ śānaiḥ śānair abhyāsakrameṇa na tu sahasā. uparamasvarūpam āha – na kiṃcid api cintayet. niścale manasi svayam eva prakāśamānaparamānandasvarūpo bhūtvātmadhyānād api nivartetety² arthaḥ // 25 //

堅固さとは [その状態を] 保持することであり、そのように把握された、即ち制圧された統覚によって、思考器官を自身に確立した状態、即ち自身のみ完全に留まった動かない状態にしてから、静寂に達すべきである。そしてそのことは次第次第に、即ち修習の次第によってであって、一方、即座にはない。寂静の本質を述べる。如何なるものをも思惟すべきではない。不動な思考器官において、全く自然に輝いている最高の歓喜をあり方とするものとなってから、アートマンの瞑想によっても [心の活動を] 停止すべきである。

<note>

1 tac ca] tat tu K. 2 nivartetey CGKP] na nivartetety B.

evam api rajoguṇavaśād yadi manaḥ pracalet tarhi punaḥ pratyāhāreṇa
vaśikuryād ity āha – **yata**¹ iti.

以上のものであっても、激質によって、もしも思考器官が動き回るとすれば、その場合再び [思考器官を] 引き戻すことによって [思考器官を] 制圧すべきである、ということ述べる。或るもの故に、と。

yato yato niścarati manaś cañcalam asthiram /
tatas tato niyamaitad ātmany eva vaśam nayet // 26 //

動揺し、不安定な思考器官が、それぞれ或る [対象] の故に彷徨い出ても、それぞれ [の対象] からそれ (思考器官) を抑制して、自身のみにある支配力に導くべきである。

svabhāvataś **cañcalam** dhāryamāṇam apy **asthiram** mano yaṃ yaṃ
viśayaṃ prati nirgacchati **tatas tataḥ** pratyāhṛtyātmany eva sthiram
kuryāt // 26 //

本性上動揺し、保持されているとしても不安定な思考器官が、それぞれの対象に対して動き出す場合、[思考器官を] それぞれ [の対象から] 引き戻すことによって、自身のみに留まったものと為すべきである。

<note>

1 yata BCGP] yato yata K.

evam pratyāhārādibhiḥ punaḥ punar mano vaśikurvantaṃ rajoguṇakṣaye
sati yogasukhaṃ prāpnotīty āha – **praśāntamanasam** iti.¹

以上のように、引き戻すこと等によって何度も思考器官を制圧する者に、激質が消失する時、ヨーガの樂が起る、ということ述べる。思考器官が全く鎮まったと。

praśāntamanasaṃ hy enaṃ yoginaṃ sukham uttamam /
upaiti śāntarajaṣaṃ brahmabhūtaṃ akalmaṣaṃ // 27 //

実に、思考器官が全く鎮まり、激質が鎮まり、ブラフマンとなった、穢れのないこのヨーガ行者に、至上の樂が訪れる。

evam uktena prakāreṇa śāntaṃ rajo yasya tam. ata eva praśāntaṃ mano yasya tam enaṃ niṣkalmaṣaṃ brahmatvaṃ prāptaṃ yoginaṃ uttamaṃ sukhaṃ samādhisukhaṃ svayam evopaiti prāpnoti // 27 //

上述のように、その者の（yasya）激質が全く鎮まった、その者ということである。同じ理由から、その者の思考器官が全く鎮まった、まさにこの、穢れのない、ブラフマンであることを得たヨーガ行者に、至上の樂、即ち〔心の〕集中の樂が、全く自然に訪れる、即ち起る。

<note>

1 praśāntamanasaṃ iti BCGP] praśānteti K.

tataś ca kṛtārtho bhavatīty āha – **yuñjann** iti.

そしてそれから、〔彼は〕目的を為したものとなる、ということ述べる。専心していると。

yuñjann evaṃ sadātmānaṃ yogī vigatakalmaṣaḥ /
sukhena brahmasaṃsparśaṃ atyantāṃ sukhaṃ aśnute // 28 //

このように、常に自身に専心している、穢れを離れたヨーガ行者は、容易に、ブラフマンの認識という究極の樂を得る。

evam anena prakāreṇa sarvadātmānaṃ mano **yuñjan** vaśīkurvan. viśe-

ṣeṇa sarvātmanā **gataṃ**¹ **kalmaṣaṃ** yasya sa² **yogī sukhenānāyāsena**
brahmaṇaḥ saṃsparśo 'vidyānivartakaḥ sāṅśātkāras tad evātyantaṃ
sarvottamaṃ **sukham aśnute**. jīvanmukto bhavātīty arthaḥ // 28 //

このように、即ち以上のあり方で、あらゆる時に、自身に、即ち思考器官（心）に専心している、即ち〔思考器官を〕制圧している、ということである。その者の（yasya）穢れが、全く、全面的に（sarvātmanā）去った、そのようなヨーガ行者は、容易に、即ち努力なくブラフマンの認識、即ち無明を破壊する直証、おなじそれ（ブラフマンの認識）であり、究極的な、即ちあらゆるものの中で至上である楽を得る。生前解脱者となる、という意味である。

<note>

1 gataṃ BCGP] vigataṃ K. 2 sa BGPK] so C.

brahmasāṅśātkāram eva darśayati – **sarvabhūtaṣṭham** iti.

同じブラフマンの直証を示す。全てのものに存すると。

sarvabhūtaṣṭham ātmānaṃ sarvabhūtāni cātmani /
īkṣate yogayuktātmā sarvatra samadarśanaḥ // 29 //

ヨーガによって自身に専心し、全てのものを同じように見る者は、自身を全てのものにありと〔見〕、また全てのものを自身のうちに見る。

yogenābhyasamānena yuktātmā samāhitacittaḥ. **sarvatra samaṃ** brahmaiva paśyātīti **samadarśanaḥ**. svam¹ **ātmānam** avidyākṛtadehādīparicchedaśūnyam **sarvabhūteṣu** brahmādisthāvarānteṣu² avasthitaṃ paśyati. tāni **cātmany** abhedena paśyati // 29 //

繰り返されているヨーガによって、自身に専心している者、即ち心を集中している者である。全てのものに対して、同じように、即ちブラフマンに他ならないと見るので、同じように見る者である。〔彼は〕自分自身（アートマン）を、即ち無明によって作ら

れた身体等による限定を欠いた者を，ブラフマン [神] から草に至るまでの全ての生類のうちにあると見る．また，それらを自身のうちに，区別なく見る．

<note>

1 svam BCGP] tathā sa svam K. 2 °ānteṣv BCGP] °ānterṣv K.

evam̐bhūtātma^{jñānasya}¹ sarvabhūtātmatayā madupāsanam² mukhyaṃ kāraṇam ity āha – **ya**³ iti.

以上のようなものである自身（アートマン）の知にとって，〔クリシュナは〕全ての生類の本性であるので，私への念想が一義的な原因である，ということ述べる．その者（yah）と．

yo mām paśyati sarvatra sarvaṃ ca mayi paśyati /

tasyāhaṃ na praṇaśyāmi sa ca me na praṇaśyati // 30 //

私を全てのものに見，また私に全てのものを見る者，彼にとって私は消失せず，また私にとって彼は消失しない．

mām parameśvaram⁴ sarvatra bhūtamātre **yaḥ paśyati, sarvaṃ ca prāṇimātram**⁵ **mayi yaḥ paśyati tasyāhaṃ na praṇaśyāmy** adṛśyo na bhavāmi. **sa ca** mamadr̥śyo **na**⁶ bhavati. pratyakṣo bhūtvā kṛpādṛṣṭyā tam vilokyānugṛhṇāmīty arthaḥ // 30 //

私を，即ち最高神を全てのものに，即ち単なる生類に見る者，また，全てのものを，即ち単なる生類を私に見る者，彼にとって私は消失しない，即ち不可見なものとならない．また，彼は私にとって，不可見なものとはならない．〔私は〕知覚されるものとなってから，同情を持った知見によって彼を見て，〔彼に〕恩恵を与える，という意味である．

<note>

1 °jñānasya BCGP] °jñāne ca K. 2 madupāsanam CGKP] madupāsana B.

3 ya BCGP] yo mām K. 4 parameśvaram CGKP] om. B. 5 prāṇimātram
BGK] prāṇimātram CP. 6 °ādṛśyo na CGPK] om. B.

na caivaṃbhūto vidhikiṃkaraḥ syād ity āha – **sarvabhūtaṣṭhitam** iti.
また、以上のような者は、[ヴェーダの] 規定に従う者では決して
ない、ということ述べる。全てのものにと。

sarvabhūtaṣṭhitam yo mām bhajaty ekatvam āsthitaḥ /
sarvathā vartamāno 'pi sa yogī mayi vartate // 31 //

[私と自身の] 同一性に立った、全てのものにある私を信愛
するヨーガ行者は、あらゆる状態にあっても、私のうちにあ
る。

**sarveṣu bhūteṣu¹ ṣṭhitam mām abhedam āsthita āsrito yo bhajati sa
yogī jñānī san sarvathā karmatyāgenāpi vartamāno mayi eva vartate
mucyate na tu bhraśyatīty arthaḥ // 31 //**

全てのものにある私を、無差別 [の立場] に立った、即ち依った
その者が (yah) 信愛する、そのようなヨーガ行者は、知者であり、
あらゆる状態で、即ち祭祀行為を捨てて活動していても、私のみ
においてある、即ち解脱している。一方、[彼は] 墮落していな
い、という意味である。

<note>

1 sarveṣu bhūteṣu BCGP] sarvabhūteṣu K.

evaṃ ca mām bhajatām yoginām madhye sarvabhūtānukampī¹ śreṣṭha ity
āha – **ātmaupamyeneti**.

そして以上のように、私を信愛しているヨーガ行者のうちで、全
てのものに同情深い者が最も優れている、ということ述べる。
自身という例によつてと。

ātmaupamyena sarvatra samaṃ paśyati yo 'rjuna /
sukhaṃ vā yadi vā duḥkhaṃ sa yogī paramo mataḥ // 32 //

自身という例によって、全てのものに対して、もしも、楽であれ苦であれ同じに見る者がいるとすれば、アルジュナよ、そのヨーガ行者は最高の者であると考えられる。

ātmaupamyena svasādṛśyena yathā mama sukhaṃ priyaṃ duḥkhaṃ
cāpriyaṃ tathānyeṣāṃ apīti sarvatra samaṃ paśyan sukhaṃ eva sa-
rveṣāṃ yo vāñchati na tu kasyāpi duḥkhaṃ sa yogī śreṣṭho mamā-
bhimata ity arthaḥ // 32 //

自身という例によって，即ち自身と同様のことによって，例えば，私にとって心地よいもの（楽），即ち好ましいもの，また不快なもの（苦），即ち好ましくないものがあるように，他の者達にとっても同様である，と全てのものに対して同じに見ている者，即ち全てのものにとって楽のみがあることを願い，一方，如何なる者にも苦があることを〔願わ〕ない者，そのヨーガ行者は最も優れたものである，という見解が私にある，という意味である。

<note>

1 °ānukampī BCGP] °ānukampā K.

アルジュナの告白：心の抑制は為しがたい（BhG 6.33-34）

uktalakṣaṇasya yogasyāsambhavaṃ manvāno arjuna uvāca – yo 'yam iti.
上述の定義的特質を持つヨーガが不可能と考えているので，アルジュナは述べた。およそこのと。

yo 'yam yogas tvayā proktaḥ sāmyena madhusūdana /
etasyāhaṃ na paśyāmi cañcalatvāt sthitim sthirām // 33 //

マドゥスーダナよ，貴方によって平等なものとして述べられ

たこのヨーガ、それ（ヨーガ）の堅固な持続を私は見ない。
[心は] 動揺するから。

**sāmyena manaso layavikṣepasūnyatayā kevalātmākārāvasthānena yo
'yaṃ yogas tvayā prokta etasya yogasya sthirāṃ dīrghakālaṃ¹ sthitim
na paśyāmi. manasaś cañcalatvāt // 33 //**

平等なものとして、即ち思考器官（心）が昏睡や散乱を欠いているので、単にアートマンを形相とする状態として、およそこのヨーガが貴方によって述べられた、このようなヨーガの堅固な、即ち [ヨーガが] 長時間持続することを [私は] 見ない。思考器官は動揺するから。

<note>

1 dīrghakālaṃ BCGP] dīrghakālīnām K.

etat sphuṭayati – **cañcalam** iti.

このこと（心は動揺すること）を明らかにする。動揺すると。

**cañcalaṃ hi manaḥ kṛṣṇa pramāthi balavad dṛḍham /
tasyāhaṃ nigrahaṃ manye vāyor iva suduṣkaram // 34 //**

クリシュナよ、実に思考器官は動揺しており、かき乱すものであり、強力であり、堅固なものである。私は、その抑圧は、風の [抑圧が非常に為しがたい] ように、非常に為し堅いと考える。

cañcalaṃ svabhāvenaiva capalam. kiṃ ca **pramāthi** pramathanaśīlam. dehendriyakṣobhakam ity arthaḥ. kiṃ ca **balavad** vicāreṇāpi¹ jetum aśakyam. kiṃ ca **dṛḍham** viṣayavāsanānubaddhatayā² durbhedyam.³ ato ya-thākāśe dodhūyamānasya **vāyoḥ** kumbhādiṣu nirodhanam aśakyam,⁴ ta-thā⁵ **tasya** manaso 'pi⁶ **nigrahaṃ** nirodhaṃ **suduṣkaraṃ** sarvathā kartum aśakyaṃ **manye** // 34 //

動揺するとは、全く本質として不安定であることである。また、かき乱すものとは、悩ませる性向を持つことである。身体と器官をかき立てるものという意味である。また、強力であるとは、考察によっても克服できないことである。また堅固なものとは、対象の潜勢力と結びついているので破壊しがたいことである。従って、虚空において猛烈に振動する風を水瓶等において抑制することが不可能なように、同様に、その思考器官に関しても、抑圧、即ち抑制は非常に為し難い、即ち全面的に為すことができないと [私は] 考える。

<note>

1 vicāreṇāpi BGKP] vicāraṇāpi C. 2 °ānubaddhatayā BCGP] °ānubandhatayā K. 3 durbhedyam BGKP] durbhedam C. 4 aśakyam CGKP] aśakya B. 5 tathā BCGP] tathāhaṃ K. 6 'pi BCGP] om. K.

心の抑制の手段（BhG 6.35-36）

tad uktam cañcalatvādikam¹ aṅgīkṛtyaiva manonigrahopāyaṃ śrībhagavān uvāca – **asaṃśayam** iti.

その、上述の動揺すること等を全く認めてから、思考器官の抑制の手段を、聖バガヴァッドは述べた。

asaṃśayam mahābāho mano durṇigrahaṃ calam /
abhyāsenā tu kaunteya vairāgyeṇa ca grhyate // 35 //

豪腕者よ、疑いなく、思考器官は抑制し難く、動揺する。しかし、クンティの息子よ、[思考器官は] 繰り返しのよって、また離欲によって把握される。

cañcalatvādinā **mano** niroddhum aśakyam iti yad vadasi etan niḥsaṃśayam eva. tathāpi **tu** viṣayācintanapūrvakam² **abhyāsenā** paramātmākārapratyayāvṛtṭyā³ viṣayavairiṣṇyena **ca grhyate** nigṛhyate.⁴ **abhyāsenā**

layapratibandhād **vairāgyeṇa ca** vikṣepapratibandhād uparatavṛttikaṃ
sat paramātmākāreṇa pariṇataṃ tiṣṭhatīty arthaḥ. tad uktaṃ yogaśāstre –
manaso vṛttiśūnyasya brahmākāratayā sthitiḥ /
yāsamprajñātanāmāsau⁵ samādhir abhidhīyate //

iti // 35 //

動揺するもの等であるので、思考器官は抑制することが不可能である、と [貴方が] 述べたこと、このことは全く疑う余地がない。しかしそのようであっても、対象を考察しないことを前提として、繰り返しによって、即ち最高のアートマンの形相を観念とする [心的] 活動によって、また対象に対する無欲によって [思考器官は] 把握される。繰り返しによって、即ち昏倒を妨害するので、また離欲によって、即ち散乱を妨害するので、[思考器官は] 活動を停止したものであり、最高のアートマンの形相に転変して止まる、という意味である。このことがヨーガの体系において述べられた。

ブラフマンを形相として存続している、活動を欠いた思考器官が、無相と呼ばれる三昧と言われる。

と。

<note>

1 cañcalatvādikam BCGP] cañcalādikam K. 2 viṣayācintanapūrvakam BCG] viṣayacintanapūrvakam K; om. P. 3 °pratyayāvṛtīyā GK P] °pratyayayā vṛtīyā BC. 4 nigṛhyate BCGP] om. K. 5 yāsamprajñāta° G PK] yā samprajñāta° BC.

etāvāms¹ tv iha niścaya ity āha – **asaṃyatātmaneti**.²

一方、以上のことがここで確定されるということを述べる。自身を抑制しないと。

asaṃyatātmanā yogo duṣprāpa iti me matiḥ /
vaśyātmanā tu yatatā śakyo 'vāptum upāyataḥ // 36 //

自身を抑制しない者によっては、ヨーガは到達されがたい、
という見解が私にある。しかし、自身を制し、抑制している
者によっては、手段に基づいて〔ヨーガは〕到達され得る。

uktaparakāreṇābhyāsavairāgyābhyām³ **asaṃyata ātmā cittam**⁴ yasya tena
puruṣeṇāyaṃ⁵ **yogo duṣprāpaḥ**⁶ prāptum aśakyaḥ. abhyāsavairāgyā-
bhyām⁷ **vaśyo** vaśavartī **ātmā cittam** yasya tena puruṣeṇa punaś cāne-
naivopāyena prayatnaṃ kurvatā yogaḥ **prāptum śakyaḥ** // 36 //

上述のあり方で、繰り返しと離欲によって、その者の（yasya）自身、即ち心が抑制されている、そのような人によってはこのヨーガは到達されがたい、即ち到達することができない。〔しかし〕繰り返しと離欲によって、その者の（yasya）自身、即ち心が制されている、即ち制御されている、そのような人によっては、さらにまた、全く同じ手段によって努力を為している者によっては、ヨーガは到達され得る。

<note>

1 etāvāṃs CGPK] etāvās B. 2 asaṃyatātmaneti GCP] om. B; asaṃyateti K. 3 uktaparakāreṇā° CPK] asaṃyatātmā uktaparakāreṇā° BG. 4 cittam CGPK] citta B. 5 puruṣeṇāyaṃ BCGP] om. K. 6 duṣprāpaḥ BCGP] duṣpāpyaḥ K. 7 °vairāgyābhyām CGPK] °vairāgyābhyā B.

アルジュナの質問：ヨーガから脱落した者はどこへ赴くのか
(BhG 6.37-39)

abhyāsavairāgyābhāvena kathaṃcid aprāptasamyagjñānaḥ kiṃ phalam
āpnotīty¹ arjuna uvāca – **ayatir** iti.

繰り返しと離欲が存在しないので、どのようにも正しい知を得ていない者は、どのような果報を得るのか、ということアルジュナは尋ねる。抑制のない者と。

ayatiḥ śraddhayopeto yogāc calitamānaṣaḥ /
aprāpya yogasaṃsiddhiṃ kām gatiṃ kṛṣṇa gacchati // 37 //

[ヨーガに対して] 信頼を得た [けれども] 抑制のない、ヨーガから思考器官が逸れた者は、ヨーガの完成を得ないで、どのような境地へ行くのか、クリシュナよ。

prathamam śraddhayopeta eva yoge pravṛttaḥ, na tu mithyācāratayā.
tataḥ paraṃ tv ayatir na² samyag yatate.³ śithilābhyāsa ity arthaḥ. tathā
yogāc calitaṃ mānaṣam⁴ viṣayapraṇaṃ cittaṃ yasya. mandavairāgya
ity arthaḥ. evam abhyāsavairāgyaśaithilyād yogasya⁵ saṃsiddhiṃ pha-
laṃ jñānam aprāpya kām gatiṃ⁶ prāpnoti // 37 //

先ず、[その者は、ヨーガに対して] 全く信頼を得た者、即ちヨーガに対して発動した者であり、一方、誤った行為を[得た者では]ない。しかしその後、[彼は] 抑制のない者、即ち正しく抑制しないということである。繰り返しが緩んだ者、という意味である。同様に、その者の(yasya) 思考器官がヨーガから逸れている、即ち心が対象に執着しているということである。離欲が弱い者、という意味である。以上のように、繰り返しと離欲の緩みによって、ヨーガの完成、即ち果報たる知を獲得しないで、どのような境地を得るのか。

<note>

1 āpnotīty BCGP] prāpnotīty K. 2 na BCGP] om. K. 3 yatate BCGP] na yatate K. 4 mānaṣam CGKP] mānaṣa B. 5 yogasya BCGP] ayogasya K. 6 kām gatiṃ CGKP] kā gati B.

praśnābhiprāyaṃ vivṛṇoti – kaccid iti.

質問の意図を解説する。なのか (kaccit) と。

kaccin nobhayavibhraṣṭaś chinnābhram iva naśyati /
apraṭiṣṭho mahābāho vimūḍho brahmaṇaḥ pathi // 38 //

[彼は] 両者（天界と解脱）から脱落し、確立しておらず、ブラフマンへの道において混乱し、千切れた雲のように、消滅しないのか、豪腕者よ。

karmaṇām īśvare 'rpitatvād ananuṣṭhānāc ca na¹ tāvat karmaphalaṃ sva-
rgādikaṃ prāpnoti.² yogāniṣpattes ca na mokṣaṃ³ prāpnoti. evaṃ **ubha-
yasmād bhraṣṭo 'pratiṣṭho** nirāśrayaḥ. ata eva **brahmaṇaḥ** prāptyupā-
ye⁴ **pathi** mārge **vimūḍhaḥ** san **kaccit** kiṃ **na⁵ naśyati**. kiṃ vā naśya-
tīty⁶ arthaḥ. nāśe dṛṣṭāntaḥ – yathā **cchinnam abhram** pūrvasmād abhrā-
d viśliṣṭam abhrāntaram cāprāptaṃ⁷ san madhya eva vilīyate tadvad ity
arthaḥ⁸ // 38 //

諸行為は、主宰神に対して捧げられたものであるのもので、また [如何なる願いを持って] 遂行されていないので、先ず、行為の結果である天界などを [彼は] 得ない。また、ヨーガが完成していないので、解脱も獲得しない。このように、[彼は] 両者から脱落し、確立しない、即ち拠所を持たない。同じ理由から、[彼は] ブラフマンへの到達の手段である小道、即ち道において混乱しているので、消滅しないのか。あるいは、消滅するのか、という意味である。消滅することに対する実例は [以下のような]。例えば、千切れた雲が、前の雲から離れていて、また他の雲に達しておらず、[前の雲と他の雲の] 真っ只中で消滅するように、そのように、という意味である。

<note>

1 na BCGP] om. K. 2 prāpnoti BCGP] na prāpnoti K. 3 na mokṣaṃ BCGP] mokṣaṃ na K. 4 brahmaṇaḥ prāptyupāye BCGP] brahmaprāptyupāye K. 5 na BCK] om. GP. 6 naśyatīty BCK] na naśyatīty GP. 7 cāprāptaṃ BCGP] aprāptaṃ K. 8 ity arthaḥ BCGK] iti P.

tvayaiva sarvajñenāyaṃ mama saṃdeho nirasanīyaḥ. tvatto 'nyas tv eta-
tsaṃdehanivartako¹ nāstīty āha – **etan ma²** iti.

一切知者である貴方によってのみ、この私の疑惑は取り除かれ得る。しかし、貴方以外には、この疑惑を停止させるものは存在しない、ということ述べる。この私のと。

etan me saṁśayaṁ kṛṣṇa chettum arhasy aśeṣataḥ /

tvadanyaḥ saṁśayasyāsya chettā na hy upapadyate // 39 //

クリシュナよ、私のこの疑惑を、[貴方は] 残らず断ち切れ。というのは、貴方以外に、この疑惑を断ち切る者は得られないから。

etad enam. chettā nivartakaḥ. spaṣṭam anyat // 39 //

このとはこれを (sg, Ac) ということである。断ち切る者とは停止させるものである。他は[意味が] 明瞭である。

<note>

1 tv etatsaṁdeha° BCGK] tu saṁdeha° P. 2 etan ma BCGP] etad K.

ヨーガ行者の帰趨 (BhG 6.40-47)

atrottaram¹ – pārtheti sārdhaiś caturbhiḥ.²

この点に対する答えを、プリターの息子よと、四偈半によって[述べる]。

śrībhagavān uvāca –

pārtha naiveha nāmutra vināśas tasya vidyate /

na hi kalyāṇakṛt kaścīd durgatiṁ tāta gacchati // 40 //

聖なるバガヴァッドは述べた。

プリターの息子よ、この[世]において、彼には消滅は決して存在しない。あちら側(来世)においても[彼には消滅は存在し]ない。というのは、愛しい者よ、喜ばしいことを為す如何なる者も、悪趣に赴くことはないから。

iha loke **nāśa** ubhayabhraṃśāt pātityam. **amutra** paraloke **nāśo** naraka-prāptiḥ. tadubhayam **tasya nāsty eva**. yataḥ **kalyāṇakṛc** chubhakārī **kaścid** api **ḍurgatiṃ na gacchati**. ayam ca śubhakārī śraddhayā yoge pra-
vṛttatvāt. **tāteti** lokarītyopalālayan sambodhayati // 40 //

ここでは、とは〔この〕世界においてであり、消滅とは、両者（天界と解脱）から脱落することで低劣になることである。あちら側においてとは、来世においてであり、消滅とは地獄に至ることである。彼には、その両者（低劣になることと地獄に至ること）は決して存在しない。何故なら、喜ばしいことを為す、すなわち吉祥なことを為す如何なる者であっても、悪趣に赴くことはないから。また、彼は吉祥なことを為す者である。信頼によってヨーガに対して発動した者であるから。愛しい者よ、とは、世間的な〔言語〕使用によって、愛情を持っていることを示している。

<note>

1 atro° BCGP] tatro° K. 2 pārtheti sārđhaiś caturbhiḥ BGP] sārđhaiś caturbhiḥ. pārtheti C; pārtheti sārđhaiś catubhiḥ K.

tarhi kim asau prāpnotīty apekṣāyām āha – **prāpyeti**.

その場合、彼は何を得るのか、という〔点に関する答えが〕期待されるので、答える。至ってからと。

prāpya puṇyakṛtām lokān uṣitvā śāśvatīḥ samāḥ /
śucīnām śrīmatām gehe yogabhraṣṭo 'bhijāyate // 41 //

ヨーガから脱落した者は、福德を為した者達の諸世界に至ってから、無限の歳月を過ごした後、清浄で栄えある者達の家
に再生する。

puṇyakāriṇām aśvamedhādiyājīnām **lokān prāpya** tatra **śāśvatīḥ**¹ **samā bahūn** samvatsarān **uṣitvā** vāsasukham anubhūya **śucīnām** sadācārāṇām

śrīmatām dhaninām gehe sa² yogabhraṣṭo janma prāpnoti // 41 //

福德を為す者達，即ち馬供犠 [祭] 等の犠牲祭を為す者達の諸世界に至ってから，そこで無限の歲月，すなわち多くの年月を過ごした後，すなわち [そこでの] 居住の快樂を経験した後，清浄な者達，すなわち正しい行いを保つ者達であり，栄えある者達，すなわち裕福な者達の家に，彼のヨーガから脱落した者は，生を得る。

<note>

1 śāsvatīḥ BGKP] om. C. 2 sa BCGK] om. P.

alpakālābhyastayogabhraṣṭe gatiḥ iyam¹ uktā. cirābhyastayogabhraṣṭe tu² pakṣāntaram āha – **atha veti.**³

わずかな時間繰り返されたヨーガから脱落する場合の帰趣が以上のように述べられた。一方，長 [時間] 繰り返されたヨーガから脱落する場合の，他の立場を述べる。あるいはまたと。

atha vā yoginām eva kule bhavati dhīmatām /

etad dhi durlabhataraṃ loke janma yad īdṛṣam // 42 //

あるいはまた，他ならぬ知性あるヨーガ行者達の家系に生じる。このような生は，実に，世間において非常に得難い。

yoganiṣṭhānām **dhīmatām** jñāninām eva kule jāyate, na tu pūrvoktānām anārūḍhayogānām⁴ kule jāyate.⁵ etaj janma stauti⁶ – **īdṛṣam yaj⁷ janma etad dhi loke durlabhataraṃ mokṣahetutvāt // 42 //**

ヨーガに従事している，知性ある，すなわち他ならぬ知者である者達の家系に生まれる。しかし，先述のヨーガ [の段階] に登っていない者達の家系に生まれるのではない。この生を称える。このような生は，実に，世間において非常に得難い。解脱の原因であるから。

<note>

1 gatiṛ iyam uktā BCGP] gatiṛiṣeṣam uktvā K. 2 tu BCGP] om. K. 3 atha veti CPK] atheti BG. 4 °yogānām BCKP] °yogānā G. 5 jāyate BCGP] om. K. 6 stauti BCKP] stauti etad iti G. 7 yaj BCGP] om. K.

tataḥ kim ata āha – **tatreṭi sārḍhena.**¹

だから何だ， [という質問があるので] それ故に， そこにおいて と， 一偈半によって答える。

tatra taṃ buddhisamyogaṃ labhate paurvadehikam /
yatate ca tato bhūyaḥ saṃsiddhau kurunandana // 43 //

そこにおいて， [彼は] その， 前世の身体で [得た] 知性と
の結合を得る． そしてそれから更に， 完成に対して努力する。
クルの子よ。

tatra² dviprakāre 'pi janmani pūrvadehe bhavaṃ³ **paurvadehikaṃ tam**
eva brahmaviṣayayā **buddhyā samyogaṃ labhate. tataś ca bhūyo** 'dhi-
kaṃ **saṃsiddhau** mokṣe prayatnaṃ karoti // 43 //

そこにおいて， すなわち二つのあり方（BhG 41, 42） [両方] と
もの生において， 以前の身体において得られたものである， 前世の
身体 [で得た]， 同じその， ブラフマンを対象とする知性と
の結合を得る． そしてそれから更に， すなわち加えて， 完成に対して，
すなわち解脱に対して努力を為す。

<note>

1 tatreṭi sārḍhena BGKP] sārḍhena. tatreṭi C. 2 tatra BCGP] sa tatra K. 3 pūrvadehe bhavaṃ BCGP] pūrvadehabhavaṃ K.

tatra hetuḥ – **pūrveti.**

この点に対する根拠は [以下のような] ． 以前のと。

pūrvābhyāsena tenaiva hriyate hy avaśo 'pi saḥ /
 jijñāsūr api yogasya śabdabrahmātivartate // 44 //

というのも、彼は、同じその以前の〔ヨーガの〕繰り返しによって、意に反していても制されるから。ヨーガを知ろうと欲するだけでも、〔彼は〕音声のブラフマンを凌駕する。

tenaiva pūrvadehakṛtābhyāsenāvaśo 'pi kutaścid antarāyād anicchann
 api saṁhriyate¹ viṣayebhyaḥ parāvartya² brahmaniṣṭhaḥ kriyate.

tad evaṁ pūrvābhyāsavaśena³ prayatnaṁ⁴ kurvan śanair mucyata itīmam
 arthaṁ kaimutyanyāyena sphuṭayati – **jijñāsūr** iti sārḍhena. **yogasya**
 svarūpaṁ⁵ **jijñāsūr** eva kevalaṁ na tu prāptayogaḥ. evaṁbhūto yoge
 praviṣṭamātro '**pi** pāpavaśād yogabhraṣṭo 'pi **śabdabrahma** vedam **atīva-**
rtate, vedoktakarmaphalāny atikrāmati. tebhyo 'dhikaṁ phalaṁ prāpya
 mucyata ity arthaḥ // 44 //

同じその以前に身体によって為された〔ヨーガの〕繰り返しによ
って、意に反していても、すなわち何らかの妨害によって望んで
 いてなくとも、抑制される、すなわち諸々の対象から顔を背けて、
 ブラフマンへ専心する者と為る。

それ故、以上の様に、以前の〔ヨーガの〕繰り返しによって努力
 を為しつつ、次第に解脱する、というこの意味内容を、「まして
 尚更」の規則によって明らかにする。知ろうと欲する者、という
 一偏半によって、ヨーガの本質を単に知ろうと欲する者に他なら
 ず、一方、ヨーガを得た者ではない。このような者は、ヨーガに
 入った（ヨーガを始めた）だけでも、罪悪によってヨーガから脱
 落したとしても、音声のブラフマン、すなわちヴェーダを凌駕す
る、すなわちヴェーダに説かれた祭式行為の諸果報を乗り越える。
 それらを超えた果報を得てから解脱する、という意味である。

<note>

- 1 saṁhriyate BCGP] sa hriyate K. 2 parāvartya BCGP] parāvṛtya K.
 3 °vaśena BCG] °valena KP. 4 prayatnaṁ CGKP] prayatna B. 5

svarūpaṃ CGKP] svarūpa B.

prayatnād yatamānas tu yogī saṃśuddhakilbiṣaḥ /
anekajanmasaṃsiddhas tato yāti parāṃ gatim // 45 //

一方、努力によって努めているヨーガ行者は、罪が浄化され、多くの生 [を経て] 成就し、それから最高の境地に赴く。

yadaivaṃ¹ mandaprayatno 'pi yogī parāṃ gaitṃ yāti tadā **yas tu yogī prayatnād** uttarottaram adhikaṃ yoge **yatamāno** yatnaṃ kurvan yogenaiva **saṃśuddhakilbiṣo** vidhūtapāpaḥ so '**nekeṣu janmasūpacitena** yogena **saṃsiddhaḥ** samyagjñānī bhūtvā **tataḥ śreṣṭhāṃ gatim yāti** kiṃ vaktavyam ity arthaḥ // 45 //

以上の様に、努力が緩くても、ヨーガ行者が最高の境地に赴く場合、その場合、一方、ヨーガ行者が、努力によって、すなわちますます、つまりとてもヨーガに努めている、すなわち努力を行っているので、同じヨーガによって罪が浄化された、すなわち罪悪が払われた場合、彼は多くの生において [実践が] 積まれたヨーガによって成就し、すなわち正しい知を持つ者となってから、それから至高の境地に赴く、ということがどうして述べられるべきであるのか（述べる必要はない、当然のことである）、という意味である。

<note>

1 yadaivaṃ BGKP] prayatnād iti yadaivaṃ C.

yasmād evaṃ tasmāt – **tapasvibhya** iti.

以上の様であるので、それ故、苦行者達よりもと [述べる] .

tapasvibhyo 'dhiko yogī jñānibhyo 'pi mato 'dhikaḥ /
karmibhyaś cādhiko yogī tasmād yogī bhavārjuna // 46 //

ヨーガ行者は、苦行者達よりも優れており、知者達よりも優れている。また、ヨーガ行者は祭式行為者達よりも優れていると考えられている。それ故、アルジュナよ、ヨーガ行者となれ。

kr̥cchracāndrāyaṇādītaponiṣṭhebhyo 'pi. **jñānibhyaḥ** śāstrajñānavadbhyo¹ 'pi. **karmibhya** iṣṭāpūrtādīkarmakāribhyo 'pi. **yogī** śreṣṭha 'bhimataḥ, tasmāt tvam **yogī bhava** // 46 //

[苦行者達よりもとは] クリッチュラ（身体的苦行）やチャンドラーヤナ（月の満ち欠けに応じた断食）等という苦行に従事している者達よりも、ということである。知者達よりも、とは、教示書の知識を持っている者達よりも、ということである。祭式行為者達よりも、とは、願望[祭]やプールタ[祭]等という祭式を行う者達よりも、ということである。ヨーガ行者は至高者である、と考えられている。それ故、お前はヨーガ行者となれ。

<note>

1 śāstrajñānavadbhyo BCGP] śāstravijñānavadbhyo K.

yoginām api yamānyamādīparāṇām¹ madhye madbhaktaḥ śreṣṭha ity āha – **yoginām** iti.²

制戒や勸戒等を志向するヨーガ行者達のうちでも、私のバクタが至高である、ということ述べる。ヨーガ行者のうちでと。

yoginām api sarveṣāṃ madgatenāntarātmanā /

śraddhāvān bhajate yo mām sa me yuktatamo mataḥ // 47 //

全てのヨーガ行者のうちでも、私に達した心によって、信頼を持ちつつ私に仕える者は、最も専心した者であるという見解が私にある。

madgatena mayy āsaktēnāntarātmanā manasā **yo mām** paramēśvaraṃ

vāsudevam śraddhāyuktaḥ san bhajate, sa yogayukteṣu³ śreṣṭho mama
saṃmataḥ. ato madbhakto bhaveti bhāvaḥ // 47 //

私に達した，すなわち私に結びついた心によって，すなわち思考
器官によって，私，すなわち最高神であるヴァースデーヴァに，
信頼と結合していて仕える者，彼は，ヨーガに専心した者達のう
ちで至高の者であるという見解が私にある．従って，私のバクタ
となれ，ということである．

<note>

1 °parāṇām BCGP] °parāyaṇānām K. 2 yoginām iti BCGP] yoginām apīti
K. 3 yogayukteṣu BCGP] yogayuktebhyaḥ K.

結頌

ātmayogam avocad yo bhaktiyogaśiromaṇim /

taṃ vande paramānandaṃ mādharmaṃ bhaktaśevadhim //

自身に関するヨーガを，バクティ・ヨーガの宝石（アルジュ
ナ）に語った，最高の歓喜であり，バクタ達にとっての宝で
ある彼のマーダヴァに敬礼する．

iti subodhinyām ṭikāyām śrīdharasvāmiviracitāyām adhyātmayogo nāma
ṣaṣṭho 'dhyāyaḥ.¹

以上が，シュリーダラ・スヴァーミンによって著された『スボー
ディニー』という註釈における「アディヤートマ・ヨーガ」と呼
ばれる第六章である．

<note>

1 iti subodhinyām ṭikāyām śrīdharasvāmiviracitāyām adhyātmayogo
nāma ṣaṣṭho 'dhyāyaḥ G] iti subodhinyām ṭikāyām ṣaṣṭho 'dhyāyaḥ B; iti
śrīmadbhagavadgītāyāḥ śrīdharasvāmiviracitāyām subodhinyām ṭikāyām

adhyātmayogo nāma śaṣṭho 'dhyāyaḥ C; iti śrīmadbhagavadgītāyāṃ svā-
mikṛtaṭīkāyāṃ subodhinyāṃ dyānayogo nāma śaṣṭho 'dhyāyaḥ K; iti śrī-
subodhinyāṃ ṭīkāyāṃ śrīdharasvāmiviracitāyāṃ adhyātmayogo nāma śa-
ṣṭho 'dhyāyaḥ P.

参考文献

一次文献

- B *Srimadbhagavadgita with the Commentaries Śrīmadśānkara-
bhāṣya with Ānandagiri, Nīlakanṭhī, Bhāṣyotkarśadīpikā of
Dhanapati, Śrīdharī, Gītārthasaṃgraha of Abhinavaguptācārya,
and Gūḍhārthadīpikā of Madhusūdana with Gūḍhārthattvāloka
of Śrīdharmadattaśarmā (Bhachchāśramā)*. Ed. by Wāsudev
Laxmaṇ Shāstrī Paṅśīkar. Bombay: Nirṇaya Sāgar Press 1936
(2nd Ed.).
- C *Śrīmad Bhagavad-Gītā: Text, Gloss, Translation of the Text and
of the Gloss of Śrīdhara Swāmī*. Trans. by Swāmī Vireśvarānanda.
Chennai: Sri Ramakrishna Math 2008.
- G *Srimad-Bhagavad-Geeta: Containing Eight Commentaries of
Keshava Kashmiri Bhattacharya called Tattva-Prakashika,
Madhu-Soodan Sarasvati called Goodhartha-Deepika, Shanka-
ranand called Tatparya-Bodhini, Shreedhara Swami called Subo-
dhini, Sadanand called Bhawa-Prakasha, Dhanapati Soori called
Bhaṣhyotkarsh-Deepika, Daivadnya Pandit Surya called
Paramartha-Prapa, and Raghavendra called Artha-Samgraha
Vol. 1-3*. Ed. by Shastri Jeevarama Lallurama, Mahadeva
Gangadhar Bhakre and Dinker Vishnu Gokhale. Bombay: The
Gujarati Printing Press 1912-1915.
- K *Śrīśrīmadbhagavadgītā: Śuddhabhaktye karakṣaka-Jagadguru
ŚrīŚrīla Śrīdharasvāmī-kṛta "Subodhini"-ṭīkā-sametā Ślokama-*

rma-kathāsāra-śikṣā-mūlānvayānuvāda-'Subodhinī'-bhāṣānuvāda-mūlānuvāda-tathya-pariprasnamālā-vividhasūcī-prabhṛtisahitā ca. Ed. by Svadhāmagata-mahāmahopadeśaka Śrīla Nārāyaṇadāsa Bhaktisudhākara Bhaktiśāstri Prabhūṇā. Kolkātā: Gauḍīya Miśana 2017 (5th Ed.).

P *Vedavyāsapraṇītamahābhāratāntargatā Śrīmadbhagavadgītā: Śrīmadhusūdanasarasvatīviracitayā Gūḍhārthadīpikākhyayā vyākhyayā, tathā Śrīdharasvāmīviracita Subodhinīvyākhyayā vyākhyayā sametā.* Ed. by Kāśīnātha Śāstrī. (Ānandāśrama Sanskrit Series 45) Pune: Ānandāśrama 1901.

二次文献

Edelman, Jonthan. 2018. "Śrīdharasvāmin," in *Brill's Encyclopedia of Hinduism Online*, Edited by Knut A. Jacobsen, Helene Basu, Angelika Malinar, Vasudha Narayanan. Consulted online on 26 March 2019 <http://dx.doi.org/10.1163/2212-5019_beh_COM_1010068425> First published online: 2018

Vireśvarānanda, Swāmī. trans., 2008. *Śrīmad Bhagavad-Gītā: Text, Gloss, Translation of the Text and of the Gloss of Śrīdhara Swāmī.* Chennai: Sri Ramakrishna Math. (= 刊本 C)

上村勝彦. 1992. 『バガヴァッド・ギター』岩波文庫.

眞鍋智裕, 佐藤隆大, 大木舞. 2016. 「*Bhagavadgītā* シュリーダラ註試訳——*Bhagavadgītā* 第 11 章 1-25 偈」『論叢アジアの文化と思想』第 25 号: (1)-(25).

[注]

(1) シュリーダラ・スヴァーミンに関しては Edelman[2018], 眞鍋 et al[2016] 参照. その他の先行研究については特に Edelman[2018] に挙げられている諸研究を参照されたい.

(2) 鈴木, 松浦両氏を始め, 勉強会において訳語の提案等をしていただいた勉強会参加者諸氏に謝意を表す. 序でも述べた通り, 最終的な文責は眞鍋にあるため, 誤訳等があった場合は, その責任は

眞鍋にある。